

持続的成長の取り組み

安全の確保と保安防災



労働安全の取り組み

労働安全衛生マネジメントシステムによる継続的な改善

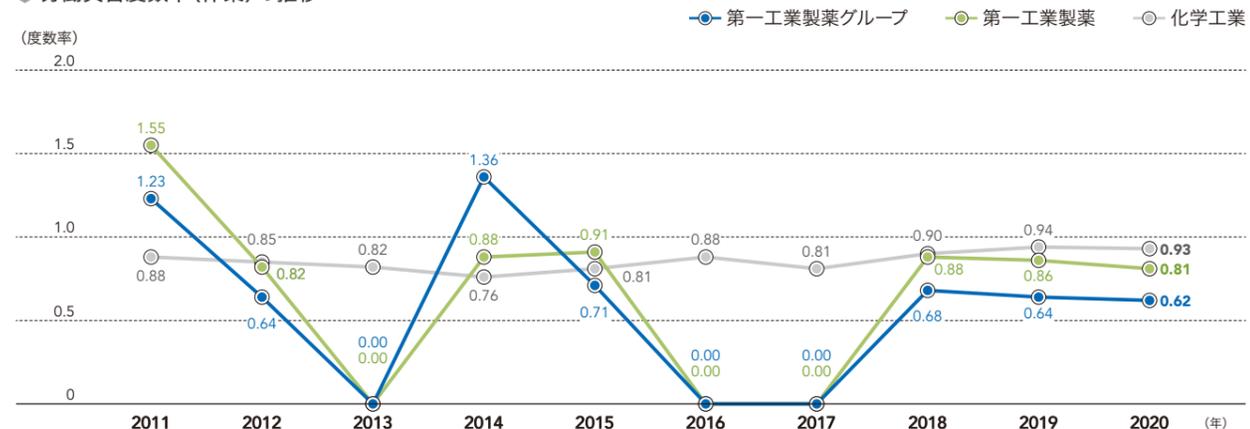
労働者の安全衛生の確保は事業活動の基盤であるとの認識の下、環境保全・安全衛生管理規程で方針を定めています。また、役員・従業員行動宣言においては職場の安全衛生の確保に取り組むことを掲げ、「災害の撲滅」、「働きやすい職場環境の確保」に取り組んでいます。2017年2月、四日市工場震地区内に安全教育研修所を開設し、新たな安全教育の取り組みを継続しています。また、2018年8月からは労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得に取り組み、2019年9月に四日市工場、2020年12月に大湯工場がJIS Q 45100

の認証を取得しました。さらに、今後も他工場で認証取得の活動を展開し、「ゼロ災」と「働きやすい職場づくり」を目指していきます。

労働災害度数率・労働災害強度率(2020/1~2020/12)

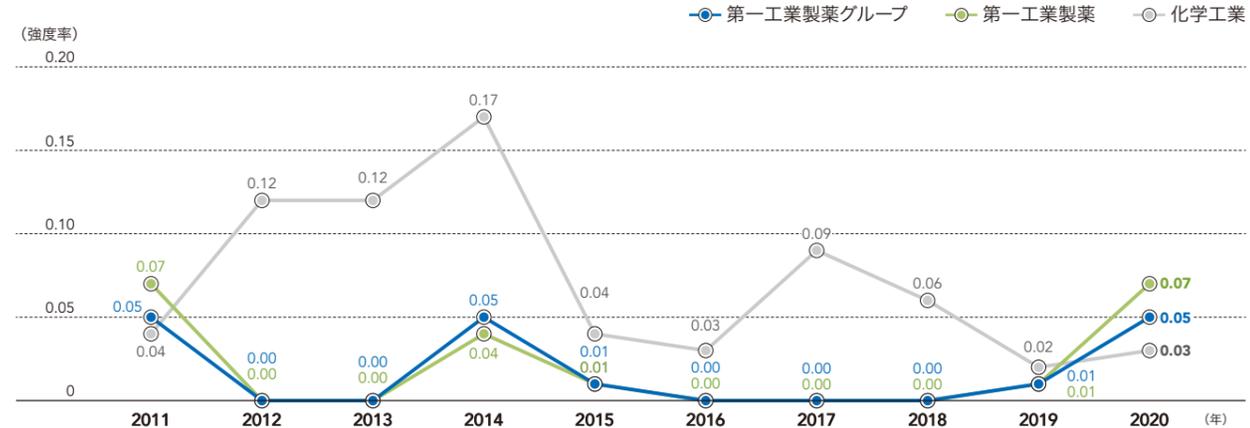
第一工業製薬グループにおいて、2020年は昨年に引き続き休業災害が発生したことから、労働災害度数率(休業)はほぼ横ばいで推移しました。適正な是正処置を行うとともに、再発防止策の徹底を実施しました。2021年は「労働災害(休業)の発生ゼロ」を目指し、安全活動をさらに強化していきます。

労働災害度数率(休業)の推移



※ 度数率=休業災害÷延労働時間×1,000,000
100万延労働時間当たりの被災者の発生頻度を示す数値

労働災害強度率(休業)の推移



※ 強度率=労働損失日数÷延労働時間×1,000
1,000延労働時間当たりの災害の重さの程度を示す数値

体感安全教育の実施

安全・安定操業の継続はメーカーの使命ですが、労働災害の防止と安全意識の向上を図るためには、安全教育を繰り返し実施することが不可欠です。四日市工場震地区において2017年2月に開設した安全教育研修所では、異常や危険に対する感受性を高めることを目的とした体験型訓練装置を設置しています。また、設備やプロセスの基本原則が理解できるようにミニプラントを導入しています。2019年度には、新たに実機スケールの教育用プラントを千歳地区に設置しました。

2020年度は新型コロナウイルスの感染対策で、研修の人数制限や開催日程の調整を余儀なくされましたが、目標とし



体験型安全訓練

ていた製造・研究部門の対象者全員に安全研修を行うことができました。

今後も、安全知識や安定操業の大切さを伝え、個々の安全意識が高まるよう継続して研修を実施していきます。

物流安全の取り組み

当社は、製品の保管・輸送に関わる物流業務を外部業者に委託していますが、レスポンシブル・ケアの精神に則り「物流の安全と環境保全の確保、顧客への物流品質の保証とサービスの提供」などを活動指針として掲げ、委託先協力会社と一体となり、物流安全の取り組みを進めています。

特に、物流事故の撲滅を目指し定期的な協議会を開催し、「安全運行・交通秩序の維持」「改正法規」「納品作業安全環境基準」「輸送仕様書」などで情報の提供、協議、教育を行っています。

また、化学品を取り扱う輸送では乗務員が万が一の事故発生時に適切な措置が取れるよう、イエローカード[※]の交付に加え容器イエローカードの対応として製品ラベルにも指針番号や国連番号を記載しています。

※ イエローカード(製品輸送時の緊急連絡カード)
化学物質輸送時の万が一の事故に備え、関係者が取るべき措置を書いた緊急連絡カード

保安防災の取り組み

緊急事態への対応(防災訓練の実施)

火災・爆発、地震、漏洩、停電など万が一の緊急事態が発生した場合に備えて、工場では保安防災体制を構築し、年度計画に従って防災訓練を繰り返し実施しています。また、近年の国内化学工場で発生した大規模な火災・爆発事故を受け、緊急時の保安防災マニュアルを整備し、万が一に備えています。防災訓練においては、消防署のご協力を得て合同で訓練を行うなど、地域と連携した訓練も行っています。化学

メーカー特有の事故、災害の未然防止のため、今後も保安防災活動に取り組んでいきます。

保安防災対策投資

2020年度の保安防災対策への投資額は、1242.4百万円でした。主に「爆発・火災・漏洩対策」「設備老朽化対策」「労働安全・作業環境改善対策」に投資しました。



公設消防隊との合同訓練(四日市工場)



公設消防隊との合同訓練(滋賀工場)



公設消防隊との合同訓練(大湯工場)